

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立寺尾中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

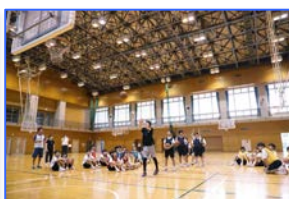
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年12月10日 (火)

■ク ラ ス : 2年2組 (30名)

■オリンピアン : 宮澤 崇史 先生 (自転車) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックには3つのバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)があると説明
- ・今日はこれまでの経験の中で感じてきたスポーツとの関わり合いや宮澤先生自身が考えるスポーツの素晴らしさ、在り方等を伝えていく、と授業の目的を確認。
- ・準備体操として、ストレッチとじゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・記憶力競争リレー(全2回)を6班対抗で実施。
- ・床の上に置かれた紙皿の上にある、ハチマキの色と場所を正確に記憶し、正解した数を競う。
- ・1回目終了後に作戦タイムを設け、どのようにすれば、時間内により正確に記憶できるかを話し合う。



4. まとめ



- ・各自役割分担がある中で、作戦タイムで話し合ったことや良い結果を出すために努力したことがスポーツでは大事なことである。
- ・多くのスポーツ選手は、失敗を反省しながら先のことを読む必要があるため、体だけでなく頭を使っている。
- ・これからは皆もこれまで以上に頭と体をしっかり使ってほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見ながら自転車競技について解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ライバルは自分」、「フレンドシップ＝友情、当たり前ではない」、「リスペクト＝敬意／尊重、ルールの中で全力を尽くす」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返りどのような作戦を立てどのような工夫をしたのか、またどのようにすればさらに高い目標を達成できたかを書き出してみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 作戦：「横1列を分担して覚える」「見て覚えたら、頭の中で繰り返す」「時間を有効に使う」等
- より高い目標を達成するための工夫：「自分が覚えるところだけでなく余裕があれば他も覚える」「置く場所を工夫する」等

4. まとめ



- ・自分の価値を高めることによって自分の立ち位置が定まり、チームを組んでも良い結果を目指せるようになる。
- ・この構造は仕事をでも同様である。今後皆がどのような進路を目指すとしても、その中で自分の価値を高めてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2019年12月10日 (火)

■ク ラ ス : 2年1組 (29名)、2年3組 (30名)

■オリンピアン : 山口 美咲 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京大会、リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、2時間という短い時間の中でオリンピックを目指す中で学んだ様々なことを皆に伝えていきたい、と授業の目的を確認。
- ・運動の時間は、オリンピックバリューがどのような意味かを頭にイメージしながら取り組んでほしいと伝える。
- ・準備体操として、ストレッチとタッチ鬼を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・10人11脚を2班毎3チームに分かれて実施。(予選、決勝/全2回)
- ・予選終了後、作戦タイムを設け、チーム毎にタイムを縮めるための改善点を話し合う。



4. まとめ



- ・目標を決めて行うのは、楽しさもあるが、難しさもある。冒頭で触れたオリンピックバリューについて、運動の時間の中でも実践できていた。皆で協力して取り組む時、誰かが失敗した際に「責める」か「励ますか」で結果は大きく変わる。
- ・座学の授業では、さらにオリンピックバリューについて詳しく伝えていくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・山口先生がオリンピックを目指す中で「本当に自分で良いのか」、「どのような選手になりたいのか」等常に考えてきた。
- ・皆にも「自分にはどのような夢があるのか」、「自分は何が好きなのか」等自分と向き合う時間にしてほしい、と授業の目的を確認。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「リスペクト＝敬意／尊重、ルールの中で全力を尽くす」、「フレンドシップ＝友情、宝物」、「エクセレンス＝卓越、ライバルは自分」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：①どのような自分になりたいのか考え、夢や目標を書き出してみよう。
 ②なぜその夢を叶えたいのか理由を考えてみよう。
 ③具体的にできることを3つ書き出してみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

「①プロ野球選手。②年俸1億円プレイヤーになりたいから。③1か月で1万回素振りをする。ご飯をたくさん食べる。1日8時間以上寝る。」

「①尊敬される人、自立している人。②かっこいい、自分のやりたいことができるから。③海外に行って色々な世界を見る。何か1つに打ち込んでみる。」

「①バレーボール選手。②小学校2年生からバレーをやっていてこれからも続けていきたいから。③身長を伸ばす努力をする。」

4. まとめ



- ・自信は自分への肯定から生まれるものであり、自分との約束を守り実践することで確実に自信がつく。まだ夢や目標がない人も、自分と向き合いなりたい姿を見つけてほしい。
- ・山口先生は、スポーツを通して人生の選択の仕方を学んだ。皆も自分で人生を選択し、誇りを持ってその道を歩んでほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈
2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了証贈呈

